

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	利用者の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	0	10	2	0	12 (12)
②	ミーティングにおいて、かかわりの初期の目標を共有できていますか?	0	10	2	0	12 (12)
③	利用者がまだなれていない時期に、訪問や通いで、声掛けや気遣いができていますか?	3	8	1	0	12 (12)
④	初期の目標を念頭においたケアができていますか?	1	6	5	0	12 (12)

できている点	<p>事前情報をまとめ、ミーティング時に伝達し、各自確認を行っている。試し利用や見学で実際に利用者から施設に来て雰囲気を感じてもらい、職員は本人や家族の状況把握に努めている。利用初期段階では利用者はもちろん、職員にも緊張や不安があるため、少しでも和らげることができるよう、積極的に話しかけを行ったり、他利用者とのかかわりや活動参加が円滑に行えるように配慮し対応することを心がけている。</p>
--------	--

できていない点	<p>相談から利用までの期間が短いこともあり、事前に得る情報ですべてを把握することができない。利用者、家族が抱えている不安や困りごと、何を求められているかを全員が理解して統一したケアを行うことが、すぐには難しい。新規利用者に対し、意識的に関わろうとする職員もいれば、積極的にコミュニケーションをとることが苦手な慣れるまでに時間が掛かる職員もいる。初期の関わりの中で得た情報 (気づき) が職員間でうまく共有されないことがある。</p>
---------	---

次回までの具体的な改善計画	<p>職員が利用者に対して統一したケアを行うためには、利用者やその関係者から得る情報を把握し、共有されていることが不可欠であり、共有するためには記録に残しておくことが必要であるが、そこが現在不足している部分である。職員から話を聞くと、それぞれが関わりの中で得る情報はたくさんあるのでそれを記録に残し職員間で共有することを重点的に取り組む。利用者一人ひとりに時間をかけてゆつくりと話をすることが難しい中でも、入浴時や周辺ケアなどの一対一の時間を大切にして意識的に関わりを持ち、様々な情報を引き出していく。</p>
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	6	5	1	12 (12)
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	0	8	4	0	12 (12)
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	0	3	7	2	12 (12)
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	8	3	0	12 (12)

できている点

ケアプラン、特に短期目標を意識して対応している。ゴールが明確な利用者に対しては支援できている。利用者の表情や言動等に気を配りながら関わりを持ち「～したい」という思いを理解しようと心がけている。関わりの中で気づいたことを日々のミーティングで伝達し、状況に応じては対応を検討し、課題解決に向けた取り組みを話し合っている。

できていない点

利用者の目標達成の過程を思い描いて、それ沿った援助の実践というところまでできていない。日々の業務に終われ、目先のことをこなすのが精一杯で気づけば利用時間が終わっていることもある。また、「～したい」と思うことに対して、事業所のみでは達成できないことも多いが、地域からの協力を得るなど、社会資源を活用した取り組みがうまくできていない。

次回までの具体的な改善計画

それぞれの利用者が持つ課題、目標が明確でないと介護職員も何をすればよいのかわからない。日々の関わりの中で見えてくる情報や「～したい」という思いを職員全員が共有し、それに即した目標設定を行う。毎月行っているケアホーム会議で現在行っているような対応検討ではなく、明確になった目標に対してどのような支援を行っていくかということ話し合う場にしていく。以前内部研修でひもときシートを用いて一人の人のことを考えた。職員それぞれが違う見方をしているものもあり、大変有意義であった。そのような深く掘り下げるような話し合いを定期的に行っていきたい。

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
---------	--

前回の改善計画に対する取組み結果	
------------------	--

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	0	0	10	2	12 (12)
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	8	0	0	12 (12)
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	0	7	5	0	12 (12)
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	4	8	0	0	12 (12)
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	4	7	1	0	12 (12)

できている点	<p>利用者の気持ち、体調変化にも気を配りながら、その時の状況に合わせて支援内容について検討し対応している。関わりの中で気づきがあれば、記録に残したり、ミーティングでの情報共有に努めている。また、自宅での生活状況 (居室配置、自宅での介護方法など) に合わせた支援を心がけている。</p>
--------	--

できていない点	<p>以前の暮らし方を 10 個以上把握できているかという問いに「できていない」と全員答えた。現在の状況を見て対応することができても、過去からその人を知るとい点では、まだまだ意識が不足している。また、話ができない利用者については家族や職員の主観で援助をすすめてしまうことが多いと感じている。</p>
---------	---

次回までの具体的な改善計画	<p>話がうまくできない利用者の対応においても、以前の暮らし方がヒントとなり、より本人の希望に沿った形での支援ができるのではないかと考えている。職員全員が利用者一人一人の以前の暮らし方を 10 個以上言えるようになることを目標として、意識して関わりを持つ中で、これまで見えなかったものが見えたり、新たな気づきにより、利用者が思う自分らしい生活を送っていただけるように取り組む。</p>
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	0	5	7	0	12 (12)
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	0	4	4	4	12 (12)
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	6	6	0	12 (12)
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	1	4	7	12 (12)

できている点

利用開始前にこれまでの生活、交友関係などある程度のことは事前情報としてまとめ、職員間で共有がされている。また、ご家庭でどのように過ごされているか、送迎、訪問などで家族から話を聞いたり、利用者本人との関わりの中から把握に努め、新たな気づきがあれば、記録やミーティング時に伝達するなどして共有を図っている。施設の周辺地域では、行事等により家族の方や地域の方と関わる機会を持っている。

できていない点

利用者が生活する地域の社会資源を把握していない。利用者の地域との関係が切れないようにするためにはどのようなことを行えばよいのか、本人のこれまでの暮らしかたを知るという取り組みができていない。本人がいくら自宅で過ごしたいと訴えてもこれまで家族が不在になるから、心配だからとの家族の希望を優先してサービス提供を行ってきたのではないかな。

次回までの具体的な改善計画

今後は利用者が住む地域での生活を意識した支援を考えていきたい。社会資源がわからないという状況を改善し、職員が利用者一人ひとりと深くかわり、その人を知っていく中で、家族のことや友人、地域のことが把握できるのではないかなと思う。そこで得る情報を共有し、上手に活用するための検討を適宜行っていく。自宅に帰れば、自身も介護の専門家として地域の社会資源の一つであることを意識することも大切だ。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	3	2	4	9 (12)
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	6	2	0	11 (12)
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	3	8	0	0	11 (12)
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2	7	2	0	11 (12)

できている点

日々の関わりや記録から「変化」に気付いた職員がその場やミーティングで他職員に伝達、共有し、必要によって家族や関係機関と連絡を取りながら、その日の状況にあわせた柔軟な支援を心掛け提供している。今年度より、施設の食事をお弁当にして提供する配食サービスを試験的にはあるが開始したことで、施設利用の頻度、過ごす時間の短縮や訪問サービスの提供方法に幅を持たせることができた。また、一人暮らしの利用者の「買物に行きたい」という希望や地域生活を支援するため、隣近所の方に協力を仰ぐことも行った。

できていない点

例えば、泊まり利用を継続している利用者の「自宅へ帰りたい」「自宅で死にたい」という思いにこたえることができない現状がある。施設でのサービス提供のみでは、利用者自身が希望する生活を実現することができないと考えているが、地域の社会資源を上手に活用し、協力体制を得て地域と連携してその人の希望する生活を支えるという視点での取り組みが足りていないと思う。地域の社会資源は何があるのか、そもそも社会資源とは何かを理解していないという職員もいた。

次回までの具体的な改善計画

利用者が生活する地域の社会資源をどうすれば上手に活用することができるか、協力体制を築くことができるかを職員が意識して関わり、その中で気付いたことを共有していく。一人暮らしであったり、家族が強い不安を感じている中でも、社会資源を上手に活用して、在宅での生活を支えていけるように様々な視点から支援方法を検討し、提案する。

6. 連携・協働

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	3	2	1	1	7 (12)
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	1	0	1	6	8 (12)
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	1	1	1	7	10 (12)
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	8	1	1	11 (12)

できている点	<p>主治医と密に連絡を取り、状態によっては家族を交えた話し合いを行っている。今年度は末期がんを患った利用者を主治医との協力連携のもと施設にて看取りを行った。体調に合わせた福祉用具の活用や他サービス利用が必要かどうかの検討も都度行っている。納涼祭、敬老会等の施設行事や防災訓練には、地域住民や保育園児に参加いただいたり、月一度の踊りのボランティアや出張市のお店の方と利用者がふれあう機会がある。町内での茶の間に参加させていただいたり、小学校の文化祭に作品を出品した。運営推進会議や地域の連絡会議等に参加し交流を図っている。また、利用登録者以外のサービス利用を検討されている方や地域の方も来所され、必要な相談援助を日々行っている。</p>
--------	--

できていない点	<p>施設で開催するイベントやボランティアできていただく頻度と比べると職員が地域の活動や行事に出ることが少ない。施設が所在する地域以外のサービス提供範囲の地域ではどのようなことが行われているのか、積極的に情報収集をすることをしてこなかったのではないかと考えている。</p>
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<p>これからも関係機関との連携を密に図り、利用者の希望する生活実現に向けた支援を行っていく。町内会から回覧版をまわしてもらするなど、今までとは別の方法でも、地域の活動、イベントなどの状況をこれまで以上に把握し、地域と施設との関係を深めていく。</p>
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

7. 運営

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	1	1	5	4	11 (12)
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	4	4	2	11 (12)
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	2	2	4	9 (12)
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	2	4	5	11 (12)

できている点	<p>管理者が交代した今年度、小規模多機能型居宅サービスのあり方について意識して取り組んできた。サービス提供状況を見ても「通い」「泊まり」のみだったものが、「訪問」を利用し自宅で過ごす方が増えて小規模多機能らしい事業所に近づいてきていると考えている。また、利用者やその家族からの意見を職員間で共有、検討し業務改善に努めてきた。ある家族からは、送迎時の対応が以前に比べて良くなったと評価された。年6回運営推進会議を開催し、特養施設と併せて施設状況を報告し、地域からの意見を反映した運営に努めている。3月に開催した「ふえふき喫茶」では、食に関する講習会や介護相談を行い、利用者家族や地域の方から参加いただいた。</p>
--------	---

できていない点	<p>介護職員からは、運営にかかわることがないのでわからないという意見が多かった。また、運営の方向性について意見する機会がない、意見するほど自信がないという職員の意見もあった。利用登録者以外にも、介護相談に来られる方がおり、必要によって当該事業以外を含めた介護についての相談援助を行っているが、小規模多機能型居宅介護がどのようなサービスなのかかわからないという方が地域住民の中にも多く、十分に認知されていない。</p>
---------	---

次回までの具体的な改善計画	<p>職員間の信頼関係を深め、誰でも、何でも言い合える、風通しが良く働きやすい職場環境を構築する。笛吹の里がここにあることは知っていても、小規模多機能型居宅介護とはなんだ? と思っておられる方が多い状況が改善されるよう、地域に向けての情報発信を積極的に行っていく。</p>
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	2	6	2	2	12 (12)
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	3	5	3	12 (12)
③	地域連絡会に参加していますか	1	0	2	6	9 (12)
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	4	7	1	0	12 (12)

できている点

内部研修は、笛吹の里全体で年間予定を立て毎月開催している。業務都合により参加できない職員もいるが、研修資料は全職員に配布し、議事録を回覧している。外部研修は、今年度は中堅職員研修、認知症実践者研修を受講し、他職員に対し伝達講習を行った。また、介護福祉士国家資格試験を2名が受験し取得した。リスクマネジメントについては、月1回委員会やケアホーム会議で事例について検討、結果を伝達回覧し、再発防止に努めている。管理者は定期的開催される地域ケア会議などに参加している。

できていない点

内部研修を行っているが、業務都合や勤務外であっても家庭の事情等で全員が出席することができない。職員により研修やスキルアップ等に挑む姿勢にばらつきがあり意識の差を感じる。また、今年度は異動で配属となった職員に対しての研修を十分に行うことができなかった。ヒヤリハットを提出しているが、まだまだ足りないと思っている。職員全体で気付きを増やし事故防止に努めていきたいと考えている。

次回までの具体的な改善計画

内部研修への参加や外部研修の情報を職員に提供し自主的な参加を促し、互いが意識し刺激し合いながら、それぞれがスキルアップを図ることで全体の力量が底上げができ、質が向上できる環境を整える。法人全体で研修についての見直しが行われている。それに沿って十分に研修を行うことができるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 3 月 23 日 (13 : 00 ~ 15 : 00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 小川・水落・早川・星野公・丸山・前山・柳本・瀬下
当日欠席は評価表事前提出 (石川、長谷川、寺島、梨本、星野直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	6	6	0	0	12 (12)
②	虐待は行われていない	8	4	0	0	12 (12)
③	プライバシーが守られている	6	3	3	0	12 (12)
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	1	1	2	5 (12)
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	5	1	0	9 (12)

できている点

高齢者虐待防止・権利擁護についての研修を年2回以上実施している。チェック項目からもわかるとおり、職員は施設内においての身体拘束、虐待について意識を高く持ち、その防止のために取り組んでいる。

できていない点

上記のとおり、意識して取り組んでいるが、職員が手薄になる時間帯や利用者が行動されたり、トイレの訴えが重なる時など、無意識に「ちょっと待って」などの声かけを行ってしまうことがある。オムツいじりがあることから、自宅ではつなぎ服を着用するなど、当施設利用以前から在宅において身体拘束されている事例があるが解消できない。行動把握のためではあるがセンサーマットを使用するケースがあるなど、完全に身体拘束や虐待につながる不適切なケアを防止することができていない。また、入浴時に脱衣室で2人の方が一緒になる。トイレで着替えをおこなってしまう。居室に入る際に挨拶を忘れてしまうことがある。支援記録を開いたままその場を離れてしまうことがあるなど、プライバシーが守られていないと思う職員もいる。また、それら不適切なケアが行われている場面で、職員間ですぐに注意することができない時がある。

次回までの具体的な改善計画

現在行っている取り組みは引き続き継続し、できていない点で上がっている事例を一つ一つ解決する。